

横浜市感染症発生動向調査事業概要

平成22年(2010年)

平成24年2月

横浜市健康福祉局健康安全部健康安全課
横浜市健康福祉局衛生研究所

はじめに

横浜市では、昭和53年(1978年)に、本市独自の感染症サーベイランス事業を開始しました。その後、昭和56年(1981年)に全国レベルで国の事業として開始され、昭和62年(1987年)からはオンラインシステムが導入され、27疾病に拡大された「感染症サーベイランス事業」が稼働、平成10年(1998年)には、「感染症発生動向調査事業」と改名されました。

平成11年(1999年)、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」(感染症法)の施行に伴い、感染症発生動向調査が法に位置付けられ、感染症法には、少なくとも5年ごとに内容・類型の検討をすることが明記されました。平成15年(2003年)、平成19年(2007年)、平成20年(2008年)に法改正が行われています。

感染症発生動向調査事業は、一類から五類に定められた全疾患について、発生状況に関する情報を迅速に収集し、解析・評価を加え、その結果を速やかに関係者や市民に還元することによって、感染症対策に役立てることを目的としています。

平成21年(2009年)には、4月にメキシコで新型インフルエンザ(A/H1N1)が発生し、その後日本国内にも感染が広がり、世界的な大流行(パンデミック)となりました。現在は、通常の季節性インフルエンザとして取り扱われていますが、今後新たに、新型インフルエンザが発生する可能性もあり、常に動向を注視していく必要があります。

この度、2010年(平成22年)分の情報をまとめ、『横浜市感染症発生動向調査事業概要』を作成しました。感染症対策の参考資料として御活用いただければ幸甚に存じます。

最後に、本事業の推進にあたり御協力いただいた横浜市医師会、定点医療機関をはじめ各機関の皆様、また本事業概要の執筆に御尽力いただいた感染症委員会の先生方、横浜市健康福祉局職員の方々に厚く御礼申し上げますとともに、今後とも一層の御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成24年2月

横浜市感染症発生動向調査委員会

委員長 北村 勝彦

目次

第1章 横浜市感染症発生動向調査事業の概要

| | |
|--|----|
| 1. 横浜市動感染症発生動向調査事業 | 1 |
| (1) 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律(感染症法)について | 1 |
| (2) 感染症発生動向調査とは | 1 |
| (3) 横浜市感染症発生動向調査システムの概要 | 1 |
| (4) 横浜市病原体調査 | 2 |
| (5) 横浜市感染症発生動向調査システムの目的 | 2 |
| (6) NESID (National Epidemiological Surveillance of Infectious Disease) について | 2 |
| 2. 感染症発生動向調査における情報の流れ(図) | 4 |
| 3. 感染症の類型 | 5 |
| 4. 感染症法で規定されている感染症 | 7 |
| 5. 区別定点医療機関(表) | 9 |
| 6. 感染症発生動向調査委員会名簿 | 10 |

第2章 一・二・三・四類感染症及び全数把握対象の五類感染症報告状況

| | |
|----------------------|----|
| 1. 一類感染症 | 11 |
| 2. 二類感染症 | 11 |
| 3. 三類感染症 | 12 |
| 4. 四類感染症 | 14 |
| 5. 五類感染症(全数把握対象) | 15 |
| (表) 全数把握対象の感染症 患者報告数 | 19 |

第3章 五類感染症(定点把握対象)報告状況

| | |
|---------------------|----|
| 1. インフルエンザ定点把握対象感染症 | |
| (1) インフルエンザ | 29 |
| 2. 小児科定点把握対象感染症 | |
| (1) RSウイルス感染症 | 30 |
| (2) 咽頭結膜熱 | 31 |
| (3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 | 32 |
| (4) 感染性胃腸炎 | 33 |
| (5) 水痘 | 34 |
| (6) 手足口病 | 35 |
| (7) 伝染性紅斑 | 36 |
| (8) 突発性発しん | 37 |
| (9) 百日咳 | 38 |
| (10) ヘルパンギーナ | 39 |
| (11) 流行性耳下腺炎 | 40 |

| | |
|-----------------------------|----|
| 3. 眼科定点把握対象感染症 | |
| (1) 急性出血性結膜炎 | 41 |
| (2) 流行性角結膜炎 | 42 |
| 4. 性感染症定点把握対象感染症 | |
| (1) 性器クラミジア感染症 | 43 |
| (2) 性器ヘルペスウイルス感染症 | 44 |
| (3) 尖圭コンジローマ | 44 |
| (4) 淋菌感染症 | 45 |
| 5. 基幹定点把握対象感染症 | |
| (1) 細菌性髄膜炎 | 46 |
| (2) 無菌性髄膜炎 | 46 |
| (3) マイコプラズマ肺炎 | 46 |
| (4) クラミジア肺炎 | 47 |
| (5) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 | 47 |
| (6) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症 | 48 |
| (7) 薬剤耐性緑膿菌感染症 | 48 |
| 6. 定点医療機関からの報告状況 | 49 |
| (表) 定点把握対象の感染症 患者報告数 | 50 |

第4章 病原体情報

| | |
|--|----|
| 1. ウイルス検査 | 61 |
| (1) 病原体定点調査成績について | 62 |
| (2) 横浜市における2009/2010シーズンのインフルエンザウイルス流行株の解析 | 64 |
| 2. 細菌検査 | 68 |

第5章 資料

| | |
|--------------------------------|-----|
| 1. 横浜市感染症発生動向調査事業定点一覧 | 71 |
| 2. 横浜市感染症発生動向調査事業実施要綱 | 78 |
| 3. 横浜市感染症発生動向調査委員会設置運営要綱 | 86 |
| 4. 横浜市感染症発生動向調査委員会報告 | 88 |
| 5. 感染症に気をつけよう | 112 |